石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

30th 1989-2019 ISHINOMAKI SENSHU University

小学校教員目指し宿泊研修
知識や指導法の理解深める
人間教育学科　15人が参加

横江信一特任教授の講義

小学校教員を目指す学生を対象とした人間学部人間教育学科の宿泊研修が2月5日から7日まで、志津川自然の家（宮城県南三陸町）で行われた。1年次生3人、2年次生8人、3年次生4人の計15人が参加。小学校の教員として必要な各教科に対する知識や指導方法、学習指導要領などについて講義が行われ、学生たちは理解を深めた。

こうした研修は同学科1期生の支援を目的に2015年から始まり、宿泊形式は3回目。今回は有見正敏特任教授ら教員が泊まり込みで指導したほか、大津幸一元教授が英語の講義を担当した。また、教員採用試験を見据えた過去問題対策や面接練習など、さまざまなプログラムが展開された。

グループワークに取り組んだ

佐藤ありさん（3年次・宮城県小牛田農林高）は「初めて面接練習に取り組むなどして、『自分にできないこと』が明確になった研修だった。同時に、日ごろの学習で身についている部分を確認することができた。普段あまり接することのない後輩たちとも交流を持つことができ、充実した時間を過ごすことができた」と振り返り、「小学生の時に憧れた担任の先生に少しでも近づけるよう、これまで以上に努力していきたい」と決意を新たにした。

千葉彩有花さん（1年次・宮城県常盤木学園高）は「大津先生の講義を聞き、苦手意識を持っていた英語に対する考え方が大きく変わった。上級生に混じっての参加で、講義内容には難しい部分もあったが、先輩たちとの集団討議では、自分の意見をしっかりと伝えることができるようになるなど、成長を実感することができ、参加して本当に良かった。母も小学校の教員だったので採用試験の合格はもちろん、母のような理想の教員を目指し、これからも頑張っていきたい」と話した。

2018年度学位記授与式（卒業式）のご案内

日時：3月20日(水)10時30分開式
会場：本学体育館

※式終了後、「卒業を祝う会」（同窓会・育友会共催、14時～、石巻グランドホテル）を開催。

生産現場、検査所などで食環境見学

生産現場、検査所などを見学し、実践的な知識や技術を学ぶ理工学部食環境学科の「食環境見学」（前田敏輝教授）。今年度は1月12日に1年次生ら16人が石巻市内の2社、2月5日に2年次生14人が登米市内の企業などを訪問した。学生たちは各社で業務内容などを聞くとともに、最先端の施設や設備に触れた。

石巻魚市場で水産業の未来について聞く１年次生

【1年次生】

石巻魚市場と、冷蔵保管や水産加工などを展開する㈱スイシンを訪れた。魚市場の衛生管理体制、水産加工場の仕組みなどの説明を聞き、熱心にメモを取った。

梶原峻介さん（宮城県仙台高）は「実際の生産現場を見ることで、企業の工夫を知ることができた。企業の方から話を聞き、これからの水産業は海外に目を向けることが重要だと感じた。今後は英語や中国語など外国語の習得にも力を入れたい」と語った。

斎藤天海さん（宮城県水産高）は「石巻魚市場では須能邦雄社長から話を聞き、社会で活躍するために多くの知識を蓄えなければならないと感じた」と話した。

宮城県食肉衛生検査所で食の安全に対する取り組みを学ぶ２年次生

【2年次生】

仙台みそやしょうゆを製造するヤマカノ醸造㈱、食品や食品製造施設の検査などを行う宮城県食肉衛生検査所へ。葛西佑壱さん（青森県弘前南高）は「知識として知っていたことも、実際に目にしたことで、より深い理解につながった。二つの現場で、それぞれ異なった方法で微生物を活用していることが面白かった。今後、微生物について調べてみたい」と話した。加藤悠河さん（秋田県角館高）は「現場で働く方から話を聞き、私たちの食事の安全を守るための努力を知ることができた。また、ヤマカノ醸造では宮城県内の大学と共同開発した商品があることを知り、自分も商品開発に挑戦したいと思った」と話した。

人間文化学科　卒業論文・研究発表会

人間学部人間文化学科の卒業論文・研究発表会が2月1日、4号館で開かれた。4年次生28人が「ことばと芸術文化」と「生活と地域文化」の二つの領域に分かれ、4年間の学びの成果を発表した。

発表する高橋七海さん（山形県九里学園高）

金子由芽さん（宮城県石巻好文館高）のテーマは「『ボーイ・ミーツ・ボーイ』という作品から知るセクシャリティーとの向き合い方」。作品を通して、アメリカでの実情や偏見などを探り「こういった問題を取り上げた児童文学では珍しいハッピーエンドの結末。社会の目を気にしない生き方に共感を覚えた。また、研究を通して宗教問題や格差社会などアメリカが抱える社会問題も知ることができた」と話した。

「歴史文化遺産と地域づくりに関する一考察」をテーマに発表したのは菅原清弘さん（岩手県一関学院高）。「生まれ育った宮城県栗原市には旧有壁宿本陣などの歴史的な建築物がある。これらをどう保存し、地域はどうあるべきかを研究したいと考えていた」。文献調査や関係者への聞き取り、有壁宿の認知度アンケートを実施し、収集したデータを分析した。「住民が関心を持ち、地域資源を継承することが地域の発展に必要だ」と結んだ。

発表後には質疑応答が行われ、4年次生たちは教員や後輩たちからの質問に丁寧に答えた。

ＩＣＴ利活用目的に包括連携協定結ぶ
石巻市・ソフトバンクと

石巻専修大学は、石巻市、ソフトバンク㈱と情報通信技術（ＩＣＴ）の利活用を目的とした包括連携協定を結んだ。1月25日、石巻市役所で締結式が行われ、尾池守学長、亀山紘市長、ソフトバンクＣＳＲ統括部の池田昌人部長が協定書を交わした。

教育・スポーツ、インバウンド観光、健康増進、子育て支援、地域産業の振興、働き方改革の6分野について、市が抱える課題の解決に本学の人材や研究力、ソフトバンクのＩＣＴ技術を用いる。

締結式では2017年度から行われている「Ｐｅｐｐｅｒ社会貢献プログラム」に加え、新たに中学校の部活動支援と、小中学校でのプログラミング教育に取り組むことが発表された。

部活動支援の概要を説明する菅野さん（左）と盛藤さん

部活動支援は経営学部の授業の一環として、ソフトバンクが提供する「スマートコーチ」（スマートフォンなどを通してレッスンを受ける通信サービス）を活用し、大学生が中学生に専門的な技術の指導を行う。部活動の担当教諭の負担を軽減する狙いもある。締結式では菅野大樹さん（経営3・宮城県柴田高）と盛藤城さん（経営2・福島県福島西高）が野球部指導について概要を説明。菅野さんは「硬式野球部で学生コーチを務めている経験を生かし、気持ちを込めてコーチングしたい」と語った。

石巻市立桜坂高校と協力し、「Ｐｅｐｐｅｒ社会貢献プログラム」に取り組む経営・舛井道晴ゼミの佐藤夏樹さん（2年次・宮城県迫桜高）は「これまで同様、石巻の魅力を伝えるアイデアを高校生たちと出し合い、多くの方に楽しんでもらいたい」と話す。同プロジェクトでは今後、石巻市のかわまち交流センターにＰｅｐｐｅｒを常設し、観光コンテンツを発信していく予定。